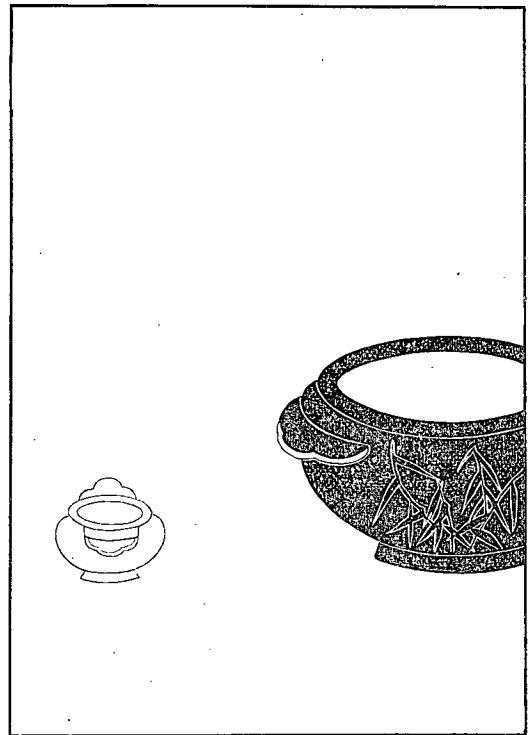


〔女用訓蒙圖彙〕女器財〔匣盤みだら〕



〔枕草子六〕犬ふせぎのかたより、法師よりきていとよく申侍ぬ、いくかばかりこもらせ給ふべきなどとふ、玄かゝりの人こもらせ給へりなどいひきかせていぬる、すなはち火おけくだ物などもてきつ、かすはんざうに手水などいれて、たらの手もなきなどあり、

〔女中道具之沙汰〕金はきとて、常のつのだらひみ、だらひなどのやうの物、つのもみ、もなく、ろぬりにこしらへたるものなり、

わたしの事、是はかねはきだらひにわたす物なり、略下

〔貞丈雜記調八〕一わたしぎとはわたしがねの事也、渡器ワタシキと書なるべし、はんぞうへわたす器と

云意にてわたしぎと云也、きといへばとて、木にてこしらへたる物にてはなし、永享行幸記に御わたしき白とあり、是銀にてこしらへたるわたししがねなり、又云、わたしたしと計り、云、婚入條々ニあり、